

研究通信

No. 11

研究会本部
東京大学文学部
東京大学文学部
東京大学文学部
東京大学文学部

再び年報と宿題について

有賀喜左衛門

研究通信九号で一応申上げたが、再び言及したい。

年報第一輯村巷研究の成果と課題については大部分の執筆者の論文を手にする事が出来て予期通りの興味のある書物が出来上りそうになっている事を執筆者諸兄に御礼申上げると共に会員諸兄と共に喜びたい。今の所少数の執筆者から原稿がとどかないので、大分おくれたが、出版元へ原稿を渡す途になつていない事は残念だ。大会返に是非上梓したいという希望をいただいている。

年報第二輯の編集も早くやりたいので、第一回大会に研究発表した諸兄及びその折の宿題について特別の研究をされた人々の研究報告を共に寄せて預きたい。第二輯の原稿の最終の切は今年十二月二十日の予定であるが、それ前に原稿を預いて、年報委員会にかけて第二輯に掲載するための検討をする事になるので出来るだけ早く送って貰う事が都合だ。

この検討会は執筆者と編集に連絡して、もし不十分な箇所があれば補足して頂いて、出来るだけ立派なものとして発表したいという気持ちから考えた事だから、執筆者の御容をお願ひし、年報委員会も誠心誠意話合うつもりでいるから、御了承をお願ひしたい。もうすでに七月中に第二輯の原稿をお送り下さるといふ人もあったが、他の方々にも出来るだけ早めにお送り下さるようお願いしたい。

一九五四年度の東京大会は通信九号では早稲田大学と報告したが、いろいろの都合で十月十八日に東京教育大学で閉く事に變更したから向違のないようにお願ひする。研究発表に關しては生田氏から向合せもあったが、発表希望の方は研究の梗概というに止まらず、詳しい内容を予め送って下さっても差支えな

い。これらは発表の有無にかかわらず、後に原稿はお返しいたしますから、その点に御心配ないうお願ひする。会員から寄せられた研究はどんなものでも大切に、年報及宿題委員会の衆議にかけて、あとで補足すれば立派になるものなら、そのようにして二年でも三年でもかけて、発表してもらう様に取計らう事が本会の目的だから、その点も御理解をお願ひする。

第二回の東京大会のための研究発表を成さなく派山送って頂きたい。研究発表者の選定については宿題委員会にお委せをお願ひするが、万一もれた方も共同討議で討論参加の機会があるし、次の、又はその次の年報に発表もなし得ると思うので、出来るだけ充実した調査研究をなされる事を心から希望している。

Neighborhood - Community Relation in Rural Society
by John H. Holt and Douglas G. Marshall; *Research Bulletin* 154, 1944.

島崎 稔

これはウイスクンシン大学で Holt 教授による Kansas 州の一九四一年の調査の報告である。六十頁ほどの小冊子の内容は、調査結果の說明と Methodology に關するノートが主要部分を占め、それに Neighborhood (N) - Community (C) の關係に關する理論的又實際的は Holt 教授の Application、用語の簡

単な説明をした Geography 及び若干の統計表である。ここでは調査の内容と方法について簡単に紹介しておきたい。ウイスクンシンの中商部にある Kansas 州の調査は一九二一年以来十年毎に大規模に実施され、その変化の傾向をみる事が主要な問題点とされて来た。一九四一年の調査でも

Wisconsin, Madison, September, 1933.
 Kell, J. H. & Day, L. J.; Superintendent
 of In-Home & County Relations in
 Rural Society, Res. Bul. 172, Agric. Exp.
 Sta., University of Wisconsin,
 Madison, December, 1950.

② Kell, J. H.; Rural Primary Groups;
 A Study of Agricultural Neighboreds,
 Res. Bul. 51, Agric. Exp. Sta., Univer-
 sity of Wisconsin, Madison.

Kell, J. H.; Trends of County Neighboreds;
 A Study of Rural Primary
 Groups 1921-1931, Res. Bul. 120,
 Agric. Exp. Sta., University of Wis-
 consin, Madison, November, 1933.

Kell, J. H., Raabale, D. G.; Neighbor-
 hood-Community Relationships in
 Rural Society, Res. Bul. 154, Agric. Exp.
 Sta., University of Wisconsin,
 Madison, November, 1949.

これらの資料は研究の進歩であるため従
 来が困難であり、その成果
 は他の書物よりうかがい知る以外に道が
 なかったのが、最近特別にみる
 機会をえ、読書会のテキストにもちいた
 りの、(一)におえて紹介した次第である。

研究会だより

すまに、この研究通信にも報告してあり
 ように、農村研究に志をもつ若い私達は、四
 月来、アメリカ農村社会学関係の書籍を
 読む会を毎週つづけてきた。まず、一九三五
 年頃までの一般の傾向をたどり、まうした知
 識を共通のものとしてから、近年の概況を
 順次、読んでいった。そして、主要な問題を

Locality Groups にしかり、これを焦点として
 中心に、モノタラフックな調査報告の類を
 りあげている。もちろん、基礎的であるいは
 組織的な知識を充分にもっている私達ではな
 い。したがって、読めぬはずの力に足りぬ
 の多いことを承知して、また、島崎君の
 文中にもあるように、アメリカ農村社会学に
 対する不審が意欲をそがせることになる場合
 も少なくない。しかし私達は、すでに公にされ
 ている鈴木・喜多野両先生の紹介論文のあと
 につきくものな、なにほどこでもえられたら
 ばと思つて努力している。現在は休暇中の
 ため中止して、九月月中旬以後、ふた
 つ毎週木曜日の五時頃から、東大社会学研
 究室において研究会をもつことにしている。先
 生方の御教示と、同じ関心をもつ方々の御参
 加を願つてやまない。

なお、この会でもりあげた問題の一部を、
 島崎君と松原君に報告してもらつたが、この
 研究会のメンバーは、いまのところ、両君の
 日かた、藤原武夫君、蓮見吉彦君、および
 本の五名である。

本年度大会についての通知

日時 十月十八日(月) 社会学会大会の翌日
 午前九時より午後七時まで
 報告、討論会ならびに協議会、懇親会
 会場 未定
 宿題についての研究報告希望者は九月五日までに
 テキストを提出の事(金澤大学社会学研究会 社研
 本部宛)

本 部 記 事

会 員 消 息
 ・大般若一氏は次の如く転任に伴い転居さ
 れました
 (新居先)大阪府住吉区住吉、大阪市立大学文部部

(住所)大阪府河内郡野田町四郎 中村氏方
 ・近沢敏一氏は次の如く住所変更されました
 福岡市古小島十一 岡崎氏方
 ・中野卓氏も同様移転
 東京都武蔵野市吉祥寺六七八
 文 献 紹 介
 「渡尾輪中農村の村落構成と生活の近代化」
 「井森隆平」金沢大学法文学部論集——哲学
 史序編1——所収昭和28年11月発行、非売品
 「近知堀地溝帯の農業地理——農業の後進
 性と兼業の問題——」齊藤晃吉、前掲誌所収
 「能登における、主として定置漁業を中心
 漁村の社会構造に關する実態調査」森正夫、
 前掲誌所収

10月に報告以後会計報告

振替貯金の部	金 越	一四一七円
会 費 取 入	金 越	二〇〇〇円
私込用紙代支	差 引 残 高	一六〇円
差 引 残 高		三二五七円
現金の部	金 越	七二七一円
会 費 取 入	金 越	二二〇〇円
NO 10 印刷費	金 越	一一〇〇円
同 郵送費	金 越	一三四四円
同 印 代	金 越	一三〇〇円
年報委員会寄通知及借望費	差 引 残 高	五〇〇円
差 引 残 高		六二九七円
合計(振替及び現金計)現在高		九五五四円

既報以後会費納入者
 奥田和彦300円、大内力300円、大内長明300円、
 二宮哲雄(80円返付)、生田清300円、池田義祐300
 円、宮坂正治300円、山岡栄市300円、村武精一
 300円、齊村精一300円、近沢敏一200円、中村正
 夫300円、杉本尚雄200円。